

歌川広重展に行く

2024-7-24

千葉宣嗣

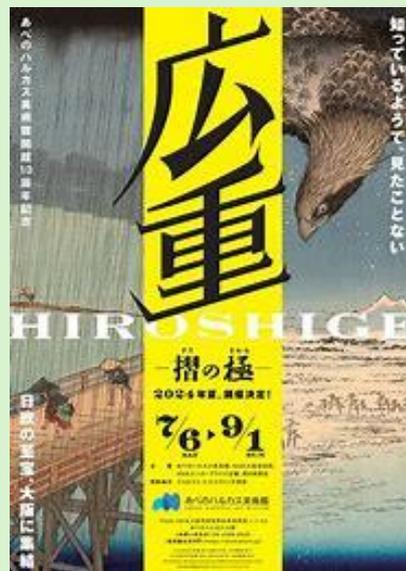
阿倍野ハルカスにて開催されている広重展を見たいと思いパソコンで何階が会場に成っているのか、を調べて見ても宣伝文句ばかりで一向に解らない。唯、身体障害者は二人が半額に成るとの事が解った。

私は心臓弁の手術以後1級の手帳を貰っているので暫く逢っていない友人誘って行こうと連絡したら是非と承諾された。日時を7月23日に決め待合場所も決めたが何階で行われているのか不安に思い、前日に行って切符を先に購入仕様と阿倍野近鉄へ出掛けて見た。

案内で16階と教えられ早いエレベータに乗り会場に入ってみて以前にハルカス60階へ昇った時の場所と同じで入口だけが別に成って居た。余り人々の姿が少ないのでゆっくりと出来ると思っ

て切符売り場へ行くと入場券は当日のみの販売に成って居ると云はれたが、館内がとても涼しく立ち去るには惜しいと座れる場所を捜して暫く暑さ凌ぎを考えた。窓の外は庭園の様に作られていて30mの高さが暑さが余り感じられないのか多くの人が楽しんで居られた。

23日、11時近鉄入口にて待ち合わせて16階会場へ即、向かって行ったが、何と人々で一杯、混雑を見て驚いた。ハルカスへ昇るお客さんで混んでいると思っ



けられる始末、入場するなり友人と座る所を先ず教えて貰う有様でした。会場の中は勿論混雑し室内の真ん中に長椅子が置かれていて取敢えず休憩が一番先で友人と二人して展示品を見るのは休んでからに成りました。入った直に人集りがしてヘッドホン解説機を貸出して居りましたがとてもそこ迄気が回りませんでした。休憩して展示作品を見て回るのですが、作品
その



ものの大きさがA4~B3位までの作品に、二重に人の頭が重なって後方から頭越しに見て回り、椅子が有れば即休む始末で疲れしました。鑑賞すると言う寄りも眺めるだけの有様でした。歌川広重作品の良さは解っているのですが、その作品の何枚もの版木を彫挙げた人や又その版木その物を見たいし、幾度も版を重ねて摺り上げた職人達の練達した腕に唯、感心する



ばかりです。雨の線核や点の版木を摺り上げる難しさは昔の職人方の腕の凄さにも感動します。私も食うが為に親父が亡くなってから彫り物の職人に成って一人前に成った積りでも多少は厳しさが良く解ります。

出口で沢山の広重関係の書物が売られて居りますがレトリックの広重版画が一枚¥35000で陳列されて居りました。パンフレットはなにも呉れませんでした。帰り14階の食堂街は高く、地下の食堂街に移り一杯呑み歓談し友人と別れました。様に成らない鑑賞会でしたがもう一度行って見たいと考えています。